

高校生防災セミナーを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、7月23日(木)、24日(金)、27日(月)、8月25日(火)、減災館において、高大連携高校生防災教育推進事業「高校生防災セミナー」を開催しました。このセミナーは、将来的に巨大地震等による大災害を経験する可能性のある高校生に、災害発生の科学や減災対策、災害と付き合う知恵、「生きる力」を学び取ってもらい、



高校生による発表の様子

自立して活動できる防災リーダーになってもらうことを目的として開催しており、今年で5年目となります。このセミナーは、夏休み中の座学・実学による学修と2学期の実践活動、年末の活動成果発表会から構成されており、今年度は新たに県内の高等学校15校から、高校生・教員合わせて75名が参加しました。

セミナーでは、減災連携研究センター関連教員による地震や液状化、津波災害の災害発生メカニズムやその対策、防災・減災とまちづくり、災害医療に関する講義、愛知県防災局によるHUG、NPOによる防災ボランティアの役割に関する講義や災害図上訓練、また、各学校での防災活動のアクションプラン作成のワークショップ等が行われました。

最終日の午後には、昨年度より参加しているV期生の成果報告と今年度から参加したVI期生の計画発表が行われました。V期生からは、各校の特徴を生かしたこれまでの様々な取り組みが、また、VI期生からは、今回学んだことやこれから実施計画が発表され、各自治体の方も参加して会場との意見交換を行いました。12月25日(金)には、高校生防災フォーラムを開催し、代表校による活動発表やグループ発表、意見交換などが行われる予定です。

名古屋 COI 拠点関連行事を開催

●未来社会創造機構

未来社会創造機構、多様化・個別化社会イノベーションデザイン拠点(名古屋COI)は、8月28日(金)東京都TOC有明コンベンションホールにおいて、文部科学省「革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)」の「平成27年度名古屋COI拠点成果発表会」及び「グローバルモビリティ拠点サミット2015」を同時開催しました。



COI 拠点成果発表会での講演

同拠点では、「高齢者が元気になるモビリティ社会」の実現を目指し、10年後を見通した研究開発活動を、産業界・大学・行政と連携して推進しています。「名古屋COI拠点成果発表会」では、事業開始から3年目の取り組みとこれまでの成果を紹介しました。江崎研司プロジェクトリーダーの全体概要説明の後、同機構に所属する教員からの各成果の紹介へと続き、モビリティの研究分野の成果について二宮芳樹特任教授及び金森 等特任教授が、また、高齢者の外出を促進する情報サービスや機器の研究分野の成果について武田一哉教授、及び新井史人教授が紹介を行いました。

一方、「グローバルモビリティ拠点サミット」では、前半に、ピーター・ノールデジー氏(ハイテクオートモーティブキャンパス、オランダ)、アンキー・スリパカゴン准教授(チュラロンコン大学スマートモビリティリサーチセンター、タイ)、フェイ・ペン教授(ミシガン大学交通研究所、アメリカ)が各拠点の先進的な取り組みを紹介しました。後半では、拠点内外から産学官界の著名なパネリストを迎え「高齢者社会×自動運転」をテーマにパネルディスカッションを行い、今後の研究活動の展開に向けての貴重な示唆が得られました。